

《履修上の留意事項》遅刻不可

学習態度（居眠り・私語）を評価対象とする

《担当者名》教授/笠師 久美子 教授/井関 健

准教授/浜上 尚也 准教授/小林 大祐

講師/水野 夏実

助教/近藤 尚也（看護福祉学部臨床福祉学科）

特別講師/横田 正司（八雲総合病院・整形外科医長、北海道日本ハムファイターズ・チームドクター）

特別講師/侘美 靖（北海道文教大学教授）

特別講師/田野 史（大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部）

特別講師/鈴木 靖（札幌市スポーツ局招致推進部連携推進調整課長、オリンピック、救急救命士）

特別講師/室伏 由佳（順天堂大学講師、オリンピック）

特別講師/鈴木 智弓（日本アンチ・ドーピング機構 サイエンスグループ）

特別講師/石本 光（北海道スポーツ協会利用サービス課）

【概要】

スポーツの現状、アスリート心理、アンチ・ドーピングと適切なスポーツ医療の理解を目的に、座学に加え、スポーツ施設見学、アスリート講義、SGDを実施する。薬学生として、将来の薬剤師として薬学的知識をスポーツ医療や臨床でどのように活用するかを総合的に学修する。

【全体目的】

スポーツ規則において、医事規則ならびにアンチ・ドーピング規則は非常に重要な位置を占めており、特に薬の適正使用が求められる。選手や指導者のみならず、医療者もドーピングとならないような薬物治療、あるいは疾患を持っていてスポーツをする場合にどのような点に留意が必要か、運動と薬の関係から理解する。

【学修目標】

スポーツにおける適正医療ならびに薬物治療について学ぶ。

アンチ・ドーピングへの支援についてスポーツや医療に関わる講義やSGDを通して思考する。

競技大会の組織運営や舞台裏について学ぶ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義概要ならびにグループワークについて概説できる。	笠師 久美子 井関 健 浜上 尚也 小林 大祐 水野 夏実
2	スポーツ医療概論 / オリンピック・パラリンピックの舞台裏	スポーツにおける薬剤師の活動を説明できる。 スポーツ競技大会の概要を説明できる。	笠師 久美子 井関 健 浜上 尚也 小林 大祐 水野 夏実
3 5 7	スポーツと医療 スポーツ医学 スポーツ栄養 パラスポーツ スポーツを支える企業 スポーツドーピング	地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（アンチ・ドーピング活動）について説明できる。 スポーツ医療について概説できる。 スポーツにおけるルール、医療におけるルールについて概説できる。 スポーツにおける多職種連携を概説できる。 【PBL】 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 E1-(1)- , (9)、(10) E2-(1)- ,	横田 正司 田野 史 侘美 靖 近藤 尚也 笠師 久美子 井関 健 浜上 尚也 小林 大祐 水野 夏実

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		F-(4)- , (5)- ,	
8	アスリート心理を考える	アスリート心理を理解するために必要な事項を列挙できる。 スポーツと社会に関する情報を列挙できる。 スポーツ施設に関する事前情報を列挙できる。 【SGD / PBL】 《薬学準備教育ガイドライン》 (2)- -3~4	室伏 由佳 笠師 久美子 井関 健 浜上 尚也 小林 大祐 水野 夏実
9 ） 10	SGD：アンチ・ドーピングのためにできること	アンチ・ドーピングについて説明できる。 地域医療における連携の重要性を説明できる。 ・4回の講義と施設見学を通して、アンチ・ドーピングのために何ができるかを討論する。 【SGD / PBL】 《薬学アドバンスト教育ガイドライン》 F -1	鈴木 智弓 笠師 久美子 井関 健 浜上 尚也 小林 大祐 水野 夏実
11	SGD：施設見学前事前学習	グループワークを通じて、スポーツ施設における体験学習についてその問題点を列挙できる。 【SGD / PBL】	笠師 久美子 井関 健 浜上 尚也 小林 大祐 水野 夏実
12 ） 13	施設見学体験学習	スポーツ施設の概要と健康スポーツを含めたスポーツ領域における活動を概説できる。	石本 光 笠師 久美子 井関 健 浜上 尚也 小林 大祐 水野 夏実
14 ） 15	発表報告会：適切なスポーツ医療とは何か	スポーツにおける適切な薬物治療について説明できる。 体験学習した内容を、発表を通じて説明できる。 【SGD / PBL】 F -1 《薬学アドバンスト教育ガイドライン》 (9)- -1~3、 2~5 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 F5-(5)- -1	鈴木 靖 鈴木 智弓 笠師 久美子 井関 健 浜上 尚也 小林 大祐 水野 夏実 近藤 尚也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

確認テスト・レポート：70%、SGDへの参加・態度・積極性：30%

【教科書】

スライドハンドアウト、関連資料・冊子配付

【参考書】

スポーツにおける薬物治療 処方と服薬指導 オーム社
アンチ・ドーピング徹底解説 スポーツ医薬 服薬指導とその根拠 中山書店
参考資料を適宜、配付

【備考】

動画ならびにDVD使用

【学修の準備】

スポーツやスポーツ医療、アンチ・ドーピングに関する情報を事前に収集する（40分）
スポーツ現場を理解し、スポーツ医療に関する知識や情報がなぜ薬学生にも必要であるかを理解する（40分）

【関連するモデルコアカリキュラム到達目標】

E 医療薬学

E1 薬の作用と体の変化 (1) 薬の作用

(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション

(10) 医療の中の漢方薬

E2 薬物治療に役立つ情報 (1) 医薬品情報

F 臨床薬学

(4) チーム医療への参画

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

【薬学部ディプロマ・ポリシー（学資授与方針）との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。

2. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

笠師 久美子（薬剤師）

井関 健（薬剤師）

水野 夏実（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

スポーツにおける適切な薬物治療を支援することも薬剤師における職能の一つである。医療機関、大学における教育ならびに競技団体における健康管理およびアンチ・ドーピング教育の実務経験を活かし、患者として受診するアスリートが安心して適切な医療を受けるために、具体的な実践内容について講義する。